

Japanese Laid-Open Patent Publication No. 61-277495

(CLAIM)

1. An electronic unit for name card, comprising a reception unit, a memory unit for storing data received by said reception unit, a transmission unit for transmitting memory content in said memory unit to outside, a display unit for displaying the memory content or the data received by said reception unit, and a control unit for controlling operation, and wherein said reception unit, said memory unit, said transmission unit, said display unit and said control unit are all received within one card.

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-277495

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和61年(1986)12月8日

B 42 D 15/02
G 06 K 19/007008-2C
6711-5B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 電子名刺装置

⑯ 特 願 昭60-121003

⑰ 出 願 昭60(1985)6月4日

⑱ 発 明 者 新 津 茂 夫 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑲ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明 細 書

1. 発明の名称

電子名刺装置

2. 特許請求の範囲

受信部と、前記受信部で受信したデータを記憶する記憶部と、該記憶部の記憶内容を外部に送信する送信部と、前記記憶部の記憶内容もしくは前記受信部で受信したデータを表示する表示部と、動作を制御する制御部とを1枚のカード状におさめたことを特徴とした電子名刺装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は従来の名刺の機能を電子的に置き換えたものであり、記憶機能と通信機能を入れることによりデータのやりとり及びファイル機能を持たせた情報装置に関する。

〔従来の技術〕

従来名刺は紙に名前、住所、会社名等を印刷しているのが一般的である。

〔発明が解決しようとする問題点〕

ところが、最近のように高度情報化社会においてはこれら名刺を整理したり、もらった名刺の所属に変更があった場合等にはその都度所属を変更していかなければならない。また自分の名刺に変更があった場合にもいつの名刺が先方へ渡っているかを覚えておく必要があった。

一方名刺交換をする場合にはあらかじめ何枚もの名刺を用意しておかなければならず、同時に何人もの人と名刺交換をおこなう場合には名刺を途中で切らして渡せなくなってしまうという場合も生じる。このようにもらったその場で適確に相手を認識したり、情報を整理したりするには現在の名刺では機能的に不十分であった。

本発明はこれらの従来の名刺の問題点を解決するためまったく新しい発想のもとにこの名刺の機能を電子化し、名刺交換は磁力や赤外線を通じてお互いの装置間でデータのやりとりをおこなうこ

とができ、記載事項の変更が容易な電子名刺装置を得ることにある。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明によれば、赤外線や磁力の受信部を持ち、外部よりの送信データを受信し、そのデータを変換し、表示すると同時にそのデータを内部のメモリに記憶し、更に赤外線や磁力の発信部を持ちメモリに記憶されたデータを送信部を通して外部の装置の送信できる電子名刺装置を得る。

〔実施例〕

次に本発明について図面を用いて説明する。

第1図は本発明の一実施例による電子名刺装置内部の電気的回路のブロック図である。赤外受光回路1は外部より送信された赤外信号を赤外受光素子により電気信号に変換し、増幅してロジックレベルに変換する。この変換された信号は制御回路2に入る。この制御回路2では入ってきた受信信号に現在の年・月・日の情報を追加して記憶回路5に記憶する。このときに記憶回路5に記憶される内容は会社名、所属、肩書、名前、住所、電

か2回目の相手かを判断でき2回目の場合には前回の年・月・日を表示することもできる。

一方、送信時にはキー入力回路3を押すことにより、受信時とは逆にあらかじめ登録しておいた自分のデータを制御回路2より赤外発光回路8の赤外発光ダイオードを通じて赤外線として相手の装置へ送信する。電池7はこれらの動作の電源となるものであるが、非動作時は記憶回路5をバックアップする。

第2図は本発明を具体化した例である。外形はカード状になっており本体101の内部に内部装置104がおさまられている。これを操作する場合はお互いに向かい合いキーボード103を押し合うことにより赤外発光ダイオード105受光ダイオード106とで相手の装置との間でデータのやりとりをおこなう。このときの相手のデータは即座に102の液晶表示板102にて表示されるので相手の名前を見ながら相手を確認することができる。内部装置104には電池111の外に表示ドライバIC107、108、制御IC109、メ

モリIC110を更に搭載している。

電話番号等になるのでこれに年月日を入れても最大128文字あればよい。これを容量計算すると漢字1字を16ビットとして1人あたり2048ビットとなるので、2048人分を記憶できる容量は約4Mビットとなる。現在ではこのバックアップ可能なメモリICとしては256kビットのCMOSメモリはすでに開発されているのでこれを16ヶ使用すればよいし、近い時点で1チップで4MビットのメモリICができるのは現在のICの開発速度からいって明らかである。

一方、受信したデータは表示ドライバ回路3を通して表示板4で表示される。この表示板4はELや液晶等を使用し、128文字表示できればよいことより200×400のドットマトリクスタイプを使用することができる。またこのドライバ回路3ではデータコードから漢字パターンに変換する1Mビット程度のROMが含まれる。

この表示機能と同時に制御回路2では過去に記憶されたメモリの内容から同じ名前を探して表示することができる。これにより即座に最初の相手

メモリIC110を更に搭載している。

〔発明の効果〕

以上説明したように、本発明では従来の名刺ではできなかった整理や検索機能をこの装置自体が持つためその場で相手が最初か2回目の名刺交換であるかを知ることができるだけでなく、肩書の変更や所属の変更もわかることができる。また装置自体を交換せず、赤外のデータの交換だけであるので多数の人との間で短時間にデータ交換をおこなうことができるばかりでなく、このデータは外部に極めて容易に取り出すことができるためあて名印刷や電話等に使用することができ、極めて応用性のあるシステムを構成することができる。

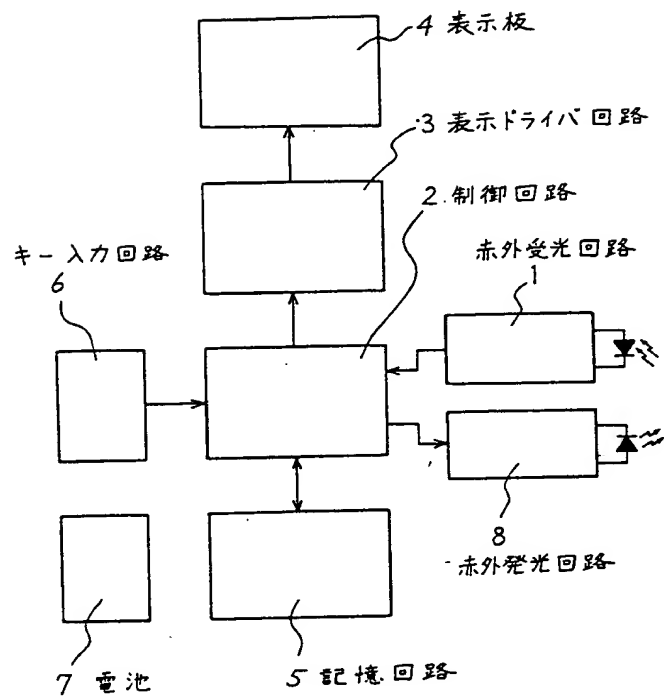
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例による電子名刺装置の電子部分のブロック図であり、第2図は本発明の一実施例を具体化した電子名刺装置の展開図である。

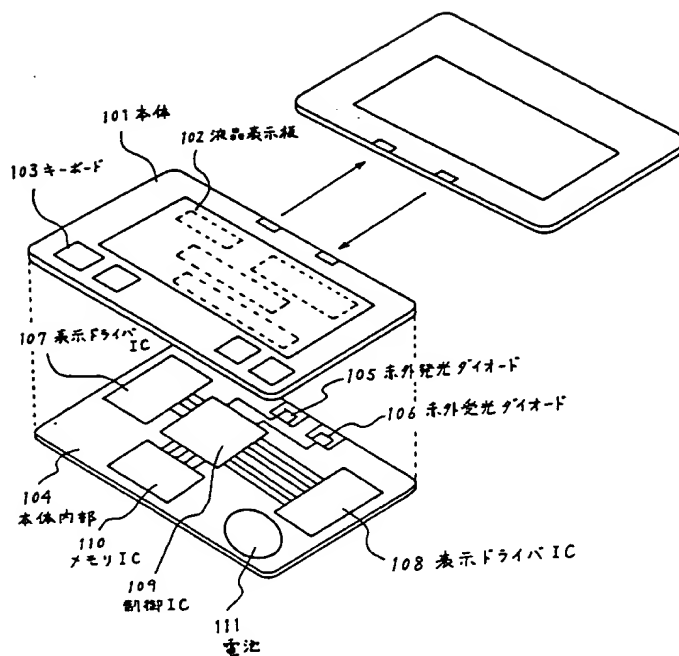
1……赤外受光回路、2……制御回路、3……

表示ドライバ回路、4……表示板、5……記憶回路、6……キー入力回路、7……電池、101……本体、102……液晶表示板、103……キーボード、104……内部装値、105……赤外発光ダイオード、106……赤外受光ダイオード、107,108……表示ドライバIC、109……制御IC、110……メモリIC、111……電子。

代理人 弁理士 内 原 晋



第1図



第2図